

報告案件 3 説明資料

北山文化・交流拠点地区における地域まちづくり構想について

資料 「京都市都市計画マスタープラン 地域まちづくり構想編
(17 北山文化・交流拠点地区)」

17 北山文化・交流拠点地区

(1) 地域の概要

北山文化・交流拠点地区は、京都市域のほぼ中央、京都市街地の北部に位置し、地下鉄烏丸線の北山駅が域内にある交通アクセスの優れた地区です。周辺は、賀茂川などの豊かな自然環境に恵まれ、大学などの数多くの学術・文化施設が集積しています。

地区内には、府立植物園、府立大学、府立京都学・歴彩館、京都コンサートホールなどが集積しており、文化・芸術と環境が共生する、府民の貴重な憩いの空間となっています。また、府立植物園、府立大学グラウンドは、災害時における地域住民や来訪者の広域避難場所として重要な役割を担っています。一方で、地区内の多くの施設が老朽化し、更新時期を迎えているほか、十分に活用できていない土地もあり、地区のポテンシャルを最大限に発揮する観点から、他用途への転用等の検討が必要となっています。



こうした中、本地区の今後の整備の推進に向けて、「京都府総合計画」（令和元年10月策定）において「北山『文化と憩い』の交流構想」が位置付けられ、令和2年12月には、本構想の実現に向けた地区の整備の方向性を示す「北山エリア整備基本計画」が策定されました。

(2) 地域の将来像

① まちづくりの理念・基本的な考え方

「北山『文化と憩い』の交流構想」を踏まえ、地区内の施設整備により、京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアの形成を目指します。さらに、国際MICEを促進し、国内外から人が集い、交流するとともに、文化庁移転を契機として、京都から新しい文化創造を進め、その効果を本地区から周辺地域、京都市域、府域へと波及させることにより、地域の活性化を目指します。

② 地域の目標・将来像

本地区の魅力を更に高めるため、以下の5つを地区の将来像として設定し、「憩いの緑と躍動するまちが融合した『文化創造の森』の創出 ～豊かな自然の中で創造される文化・芸術・学術・スポーツに身近に出会い、交流するまち 京都北山～」の実現を目指します。

- 豊かな自然に包まれた環境
- オープンに繋がる空間
- 多様な人々が集まり交流するまち
- 新たな文化・芸術の創造・発信の拠点
- 文化・芸術・学術・スポーツに触れられる魅力的な空間

(3) 地域のまちづくりの方針

○ 地区全体の整備の方向性

- ・ 植物園の緑が地区内に広がり、各施設が木々の緑の中に佇む空間の創出
- ・ 施設の枠を越えて人が自由に往来できる空間づくり
- ・ 日常的に人が集い交流できるまちの形成
- ・ 新たに整備する建築物の外観に配慮し、調和の取れた景観形成

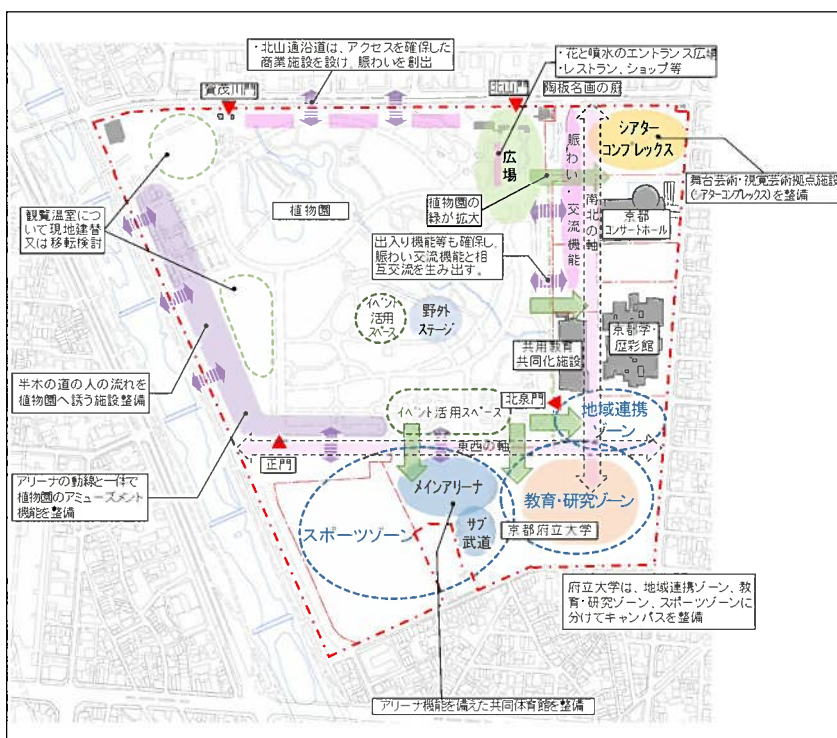
○ 将来像を実現するための主な施設整備内容

<地区全体>

- ・ 北山通から府立大学に繋がる南北軸、賀茂川から下鴨中通に繋がる東西軸など、地区全体の回遊性を高める動線の整備
- ・ 植物園を中心に周辺施設がスムーズに繋がり、ハード・ソフト両面での連携が可能となるような動線等の整備

<旧総合資料館跡地>

- ・ 舞台芸術系（演劇・舞踊・ダンス等）・視覚芸術系（絵画・写真・工芸・華道・書道・デザイン・建築等）が集積した、京都の他の施設にはない交流・創造・発表の機能の整備
- ・ コンベンション、飲食施設等の集積や、魅力的なイベントの開催等が可能な賑わい・交流機能の整備
- ・ 本地区のエントランスに相應しい「広場」機能整備



<府立大学>

- ・ キャンパスを再編・整備し、用途に応じて、教育・研究ゾーン、地域連携ゾーン、スポーツゾーンのゾーニングを設定
- ・ 府民に開かれた大学として、研究成果を還元し地域や企業と連携・交流を推進する施設を整備
- ・ 老朽化した体育館について、府立大学、府立医科大学、京都工芸繊維大学との3大学連携に供するとともに、学生スポーツの公式試合や国際試合等の開催も可能なアリーナ機能を備えた学生スポーツの拠点として整備し、府民の一般利用や文化イベント等にも活用

<府立植物園>

- ・ 北山通や半木の道と連続性を持たせ、人の流れを地区内に引き込む施設・動線の整備
- ・ ビジターセンター、カフェ・レストラン、ミュージアムショップ等、複合的な機能を備えた正門周辺の整備
- ・ 機能劣化した観覧温室の大規模改修又は建替え

○ 本地区のまちづくりに当たって配慮する事項

- ・ 北山通より一筋北、下鴨中通より東、大学南側通より南は、閑静な住宅地を形成しており、周辺環境と調和するよう配慮する。
- ・ 地区内外の立地施設間のハード・ソフト両面での連携・協働を一層推進し、利用者目線でのまちづくりを進める。
- ・ 地区全体の整備に当たっては、再生可能エネルギーの活用等、環境に配慮するとともに、防災性にも優れたエネルギーシステム等の導入についても考慮する必要がある。 など